

(自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク 第11回知事会合)

ふるさと創生に向けた大学との連携

青 森 県



青森県基本計画

未来を変える挑戦

～強みをとことん、課題をチャンスに～

県内大学等との連携と若者の県内定着についての課題と取組

課題

全国的にも速い人口減少のスピード
(少子化、若者世代の県外流出など)

- 地域活力の低下、労働力の減少
- 婚姻率・出生率低下の悪循環

大学進学者（県内高卒）の
県内大学への進学率（※） **38.5%**

※ 平成29年度学校基本調査の数値を元に算出

県内大学生の県内就職率（※） **32.5%**

※ 平成29年3月卒業の就職内定者の内、県内就職内定者の割合

県内大学等との更なる連携強化が必要

- 地域志向の人財育成や大学間の連携促進
- 産学官連携の推進による地域産業の活性化
- 大学生等の地元定着促進
- 人財交流の活性化・未来の地域づくり

若者の県内定着・県内就職率の向上

青森県の取組例

地域志向の人財育成や大学間の連携促進

- ◆ オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業（COC+） など

産学官連携の推進による地域産業の活性化

- ◆ 革新的イノベーション創出プログラム（弘前大学COI）
- ◆ 地域イノベーション戦略支援プログラム（あおもりPG）
- ◆ 政府関係機関の移転活用（JAMSTECの人材育成機能の一部移転） など

大学生等の地元定着促進

- ◆ 技術系学生のインターンシップ等の促進
- ◆ 誘致企業の大学生等へのPR・人財の獲得
- ◆ 就活応援・若手社員の職場定着の促進
- ◆ U・I・Jターン就職の促進・雇用支援
- ◆ 大学入学時奨学金による進学支援 など

人財交流の活性化・未来の地域づくり

- ◆ 地域づくりインターンシップ（東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラムの活用） など

大学を起点としたライフノベーションの創出①（弘前大学COI）



文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム【COI STREAM】」（H25採択）

真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点

対象
事業

認知症・生活習慣病研究とビッグデータの融合による
画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発

大規模且つ多項目の健康診断により蓄積された地域住民の健康ビッグデータを利活用

岩木健康増進プロジェクト

【対象】 弘前市岩木地区の住民 1,200人
【調査分析項目】 2,000項目

弘前いきいき健診

【対象】 弘前市民 1,100人
【主な調査項目】
認知機能・骨密度・歯科口腔



ビッグデータの解析

開発事業

予兆発見アルゴリズムの開発

予兆発見のアプリケーション開発

予防法モデルの開発

産学官連携

社会実装



COI事業との連携

健康未来イノベーションセンター
(H29年度末完成予定)

健康医療・健康産業の活動拠点

大学

自治体

企業

市民

金融

健康寿命の増進

医療費の削減

地域産業の活性化

雇用の創出

大学を起点としたライフイノベーションの創出②（あomorいPG）



あomorいPG

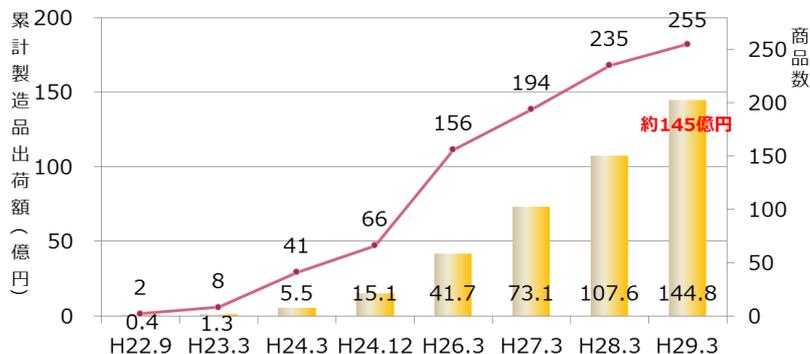
弘前大学が開発した技術により抽出されたプロテオグリカン

文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム」（H25採択）

プロテオグリカン関連バイオマテリアルをコアとした津軽圏ヘルス&ビューティー産業クラスターの形成・拡大



プロテオグリカン商品数・累計製造出荷額



一般社団法人あomorいPG推進協議会

会員数	83社（企業76／団体7）
商品販売者	64社（うち県内企業 42社）
商品数	255商品（うち県内企業 182商品）
認証商品	132商品（うち県内企業 87商品）
製造販売額	累計 約145億円

※上記数値はH29.3月末時点。

青森ライフイノベーション戦略セカンドステージ推進事業

商品開発支援

- ・商品開発及び既存商品のブラッシュアップに係る経費を補助

商品競争力強化

- ・商品製造ノウハウの強化、定量分析技術の確立

ブランド化推進

- ・県内企業のPG配合商品を統一ブランド化
- ・大手通販会社の流通プラットフォームを活用した販路開拓

通販ビジネス拡大

- ・商品づくり、改良方法を学ぶワークショップの開催

販路開拓支援

- ・首都圏関連展示会への出展支援、セミナーの開催

健康美容産業の活性化による
雇用の創出・拡大

東京大学「フィールドスタディ型政策協働プログラム」の活用

地域づくりインターンシップ (H27~)

- ・県内外の大学生を集落地域等へ派遣
- ・様々な体験や試行錯誤を通して、新たな視点から地域課題の解決に対して提案を行う
 - ▶ 地域に刺激を与え、地域住民の意識の変化や活動を促進 (きっかけの創出)
 - ▶ 地域との関わりや多世代交流、外部人材との交流を促進 (未来の地域づくり)

H29年度の実施内容



地域運営組織で経営する産直施設の集客向上



地域コミュニティとしての温泉施設の活用

東京大学「フィールドスタディ型政策協働プログラム」(H29)

自然保護と利活用を両立する共生社会の地域づくり



十和田市

(現地活動) H29.8.18~9.7

- ・ガイド、カメラマン、漁師等、地域住民との交流
- ・地域のキーマンへのインタビュー
- ・統廃合となる小学校や高校等への調査

サイクルツーリズムによる観光振興



五所川原市

(現地活動) H29.8.21~9.3

- ・津軽半島地域サイクルコース実地調査
- ・地域のキーマンへのインタビュー
- ・ガイド、案内表示、多言語対応の検討

成果報告会に向けて継続調査中